

国際美術展における地域性に関する研究

ー横浜トリエンナーレと越後妻有アートトリエンナーレを事例としてー

日大生産工（院） ○荒木 晋作 日大生産工 田中 遵
日大生産工 日高 單也

1. はじめに

1-1. 研究の背景と目的

近年、世界では国際交流、地域振興等を目的に様々な国際美術展が開催されている。日本では、都市部において「横浜トリエンナーレ」、そして地方においては「越後妻有トリエンナーレ」等が2000年以降本格的に開催されている。

歴史的背景として、世界初の国際美術展であるベネツィア・ビエンナーレは1895年から今日まで継続して開催され、最も古い国際美術展として認識されている。また、ドイツ・カッセルで行われるドクメンタもディレクターのコンセプトをもとに1955年に開催され、今日に至っている。

これらの国際美術展は開催地域の歴史的背景、開催場所の地理的特徴、規模等が違い、それらが各国国際美術展の特徴・差異であると考えられる。

しかし、世界の国際美術展の中には開催地域の特徴が活かされず、独自性を打ち出すことが出来ない国際美術展も見うけられる。

そこで、本研究は世界の国際美術展の特徴をふまえ、日本において継続中の国際美術展である「横浜トリエンナーレ」と「越後妻有アートトリエンナーレ」の開催場所の地域性を把握することで、開催地域における国際美術展の在り方を明らかにすることを目的としている。

1-2. 用語の定義

本研究において使用される用語の意味を定義する。これらの用語は明確には定義されていないが本研究においては以下のように定義する。

①地域性

国際美術展が開催される地域の歴史的背景、地理的状況等の特色の事を指す。

②国際美術展

本研究で対象とする国際美術展は以下の特徴を持

つものとする。

- 1) 継続的な開催が前提となっている
- 2) 開催にあたり公的資金が導入されている
- 3) 国際性が見られる（参加作家やディレクターが諸外国の人々で構成されている）

③ビエンナーレ

イタリア語で「2年に一度」の意。本研究では隔年開催の国際美術展のことを指す。

④トリエンナーレ

イタリア語で「3年に一度」の意。本研究では3年おきの国際美術展のことを指す。

2. 研究対象について

研究対象である「横浜トリエンナーレ」と「越後妻有アートトリエンナーレ」の概要を以下に述べる。

1) 「横浜トリエンナーレ」

開催された背景として、日本初の国際美術展である「東京ビエンナーレ」が1970年に事実上国際美術展の役割を終え、1990年に廃止されたことにより、その後新たな国際美術展の開催の可能性が模索されてきた。そして、1990年代に入り日本美術の国際化が進んだこともあり、横浜で開催される運びとなった¹⁾。2001年に開催された第1回展はパシフィコ横浜と赤レンガ一号倉庫を会場に開催された。2つの会場は徒歩で十分ほどの距離にあり、横浜を象徴する2棟の建物により会場が構成された²⁾。

2) 「越後妻有アートトリエンナーレ」

開催された背景として、地域振興を目的とした「越後妻有アートネックレス整備事業」の一環として、2000年・2003年・2006年に開催された。「越後妻有アートネックレス整備事業」とは越後妻有地域全体の振興を図るために、新潟県と十日町市、川西町、中里町、松代町、松之山町、津南町の6市町村（十日町市、川西町、中里町、松代町、松之山町は

2005年に合併し、十日町市となった）の連携のもとに実施されたプロジェクトである。

「越後妻有アートトリエンナーレ」の対象地域の範囲は東西32キロメートル、南北43キロメートル、面積762平方キロメートルと広大であり³⁾、その土地に作品が点在している。

3. 研究の方法

本研究では、まず、文献及び公式ホームページを用いて世界の国際美術展の概要の把握を行った。そして、1) 各国際美術展の開催年代の把握、2) 会場構成を表にまとめ、各国際美術展の特徴の把握を行った。

世界の国際美術展の概要をふまえ、「横浜トリエンナーレ」と「越後妻有アートトリエンナーレ」の特徴の把握を行った。「横浜トリエンナーレ」に関しては、文献及び公式ホームページと2008年10月に行った現地調査により特徴の把握を行った。「越後妻有アートトリエンナーレ」に関しては、文献及び公式ホームページ、2006年8月実施の「越後妻有アートトリエンナーレ2006」調査資料と、2007年に開催されたイベントである「大地の祭り」の現地調査により特徴の把握を行った。

4. 国際美術展が開催された背景

最も古い国際美術展であるベネツィア・ビエンナーレが開催された背景は以下の通りである。石井元章によると⁴⁾、ベネツィアは1861年にイタリア王国として統一された後、ローマやミラノとは異なり美術市場を失う一方であった。これを巻き返すために、国王ウンベルト一世の成婚25周年を契機としてベネツィア・ビエンナーレが企画された。

ベネツィア・ビエンナーレは「ミュンヘンの万国博覧会」を参考にしており、1897年の第1回展に先立って行われた内国博覧会（1985年開催）を出発点に開催されたと言われている。

5. 国際美術展の開催年代の把握

表1は世界の国際美術展の開催年代をまとめたものである。

1890年代において、初めて国際美術展が開催されていることが分かる。その国際美術展とはヨーロッパにおける「ベネツィア・ビエンナーレ」（1897年開催）と北アメリカにおける「カーネギー・インターナショナル」（1896年開催）である。

1990年代から1940年代にかけてはヨーロッパにおける「ミラノ・トリエンナーレ」の開催のみで

表1. 国際美術展の地域別開催数

開催年	地域						
	ヨーロッパ	アジア (日本以外)	北アメリカ	オセアニア	アフリカ	南アメリカ	日本
1890年代	1		1				
1900年代							
1910年代							
1920年代	1						
1930年代							
1940年代							
1950年代	3					1	2
1960年代		1					
1970年代	1		1	1			
1980年代		2	1		1		1
1990年代	5	5	2	2	2	1	8
2000年代	11	5					11
計	22	13	5	3	3	2	22

[注5]

表2. 1990年代以降の国際美術展の開催地域
(ヨーロッパ、アジア(日本以外)、日本)

	地域		
	ヨーロッパ	アジア(日本以外)	日本
1990年代	リヨン(フランス)	シャルジャ(UAE)	高知
	欧州各地	イスラエル	大阪
	フィレンツェ(イタリア)	光州(韓国)	札幌
	ベルリン(ドイツ)	上海(中国)	洞爺湖町(北海道)
	リバプール(イギリス)	台北(台湾)	安房(千葉)
			東京
			福岡
2000年代	バルセロナ(スペイン)	成都(中国)	越後妻有(新潟)
	ヨーテボリ(スウェーデン)	釜山(韓国)	愛知
	バレンシア(スペイン)	広州(中国)	横浜
	プラハ(チェコ)	北京(中国)	青森
	セビーリャ(スペイン)	シンガポール	琵琶湖周辺(滋賀)
	ブカレスト(ルーマニア)		京都
	アラード(ルーマニア)		別府(大分)
	トリノ(イタリア)		福岡
	モスクワ(ロシア)		神戸
	テサロニキ(ギリシャ)		
	アテネ(ギリシャ)		

[注5]

ある。また、1950年代に一举に6つの国際美術展が開催されており、1940年代までは国際美術展がまだ一般的ではなかったことがうかがえる。

また、1990年代の開催が25、2000年代の開催が27であり、1990年以降に開催が本格化したことがうかがえる。

1990年以降の開催に関して地域別に見ると、ヨーロッパと日本が22、次ぎにアジア(日本以外)が13である。他地域は北アメリカが5、オセアニアが3、アフリカが3、南アメリカが2であり、ヨーロッパ、アジア(日本以外)、日本と比較すると開催数が少ないことがわかる。

表2⁶⁾は1990年以降の開催数が多いヨーロッパ、アジア(日本以外)、日本の開催地域をまとめたものである。ヨーロッパの傾向としては、ヨーロッパ各地で幅広く開催されているものの、スペイン3地域(バルセロナ、バレンシア、セビーリャ)、イタリア2地域(フィレンツェ、トリノ)、ルーマニア2地域(ブカレスト、アラード)、ギリシャ2地域(テ

サロニキ、アテネ)と複数の開催地域を持つ国が4ヶ国みられた。アジア(日本以外)の傾向としては、中国、韓国において、それぞれ4地域、2地域で開催されており、また、台湾においても台北で国際美術展が開催されるなど東アジアが中心であることがうかがえる。日本の傾向としては、都市部と地方部という特徴を持つ地域が混在している。日本における代表的な国際美術展である「横浜トリエンナーレ」と「越後妻有アートトリエンナーレ」も同様に都市(横浜トリエンナーレ)と地方(越後妻有アートトリエンナーレ)という特徴を持っていると考えられる。

6. 各国際美術展の会場構成の把握

表3は国際美術展の会場構成の特徴を「1つの会場のみで構成」と「複数の会場で構成」の二つに分け、地域別でまとめたものである。北アメリカと南アメリカにおける会場構成は他地域とは異なり、「1つの会場のみで構成」した国際美術展のみとなっている。

表4は国際美術展の会場構成の特徴を年代別でまとめたものである。1890年代に開催された2つの国際美術展は「1つ会場のみで構成」されている。1950年代になり「複数の会場で構成」された国際美術展が初めて開催された。1つ目はヨーロッパにおける「ドクメンタ」であり、二つ目は日本における「東京国際版画ビエンナーレ」である。

「複数の会場で構成」された国際美術展は1950年代以降は毎年代開催されており、国際美術展の開催方法が多様化したと思われる。国際美術展の開催が本格化した1990年代以降は「1つの会場のみで構成」と「複数の会場で構成」の割合がおおよそ半分であり、各国際美術展が開催状況に応じて、会場構成を選択していることがうかがえる。

7. 「横浜トリエンナーレ」と「越後妻有アートトリエンナーレ」の地域性について

7-1. 「横浜トリエンナーレ」会場の特徴

「横浜トリエンナーレ2008」の会場はメイン会場として、新港ピア、日本郵船海岸通倉庫、横浜赤レンガ倉庫1号館の3ヶ所、また、運河パーク、大さん橋国際旅客ターミナル、三溪園、ランドマークプラザにおいても作品が設置され、会場として使用されている。会場は「複数の会場で構成」されており、観客は徒歩やバスを使用し、各会場を移動している。

また、日本郵船海岸通倉庫、横浜赤レンガ倉庫1号館や三溪園は横浜における歴史的建造物として認識されており、既存の空間をアート空間に転用していると考えられる。また、新港ピア、運河パーク、大さん橋国際旅客ターミナル、ランドマークプラザはみなとみらい地区を象徴する場所であり、観客が会場として認識しやすい場所であると考えられる。

7-2. 「越後妻有アートトリエンナーレ」会場の特徴

「越後妻有アートトリエンナーレ」は、メイン会場を持たず越後妻有地域全体を会場として開催されている。設置される作品も、越後妻有地域の特色を取り込んだサイトスペシフィックな作品により構成されている。このことにより、図5や図6のように観客は自ずと作品と共に越後妻有の自然に触れる機会を得られると思われる。

交通手段であるが、作品は広大な地域に点在しているため自動車の利用は不可欠であると考えられる。地域全体を巡る道路も整備されており、交通網の完備は越後妻有地域全体を会場とすることが出来た要因であると思われる。

8. まとめ

8-1. 国際美術展の開催年による傾向

1897年に世界で初めての国際美術展であるベネ

表3. 会場構成(地域別)

	地域							計
	ヨーロッパ	アジア(日本以外)	北アメリカ	南アメリカ	アフリカ	オセアニア	日本	
1つの会場のみで構成	5	5	3	1		2	10	26
複数の会場で構成	9	6				1	10	26
計	14	11	3	1		3	20	52

[注5]

表4. 会場構成(年代別)

	年代												計
	1890年代	1900年代	1910年代	1920年代	1930年代	1940年代	1950年代	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	
1つの会場のみで構成	2			1			4		2		9	8	26
複数の会場で構成							2	1	1	2	8	12	26
計	2			1			6	1	3	2	17	20	52

[注5]



図 1. 運河パークからランドマークタワーを見る



図 2. メイン会場「新港ピア」



図 3. メイン会場「横浜赤レンガ倉庫 1 号館」



図 4. 「大さん橋国際旅客ターミナル」

ツィア・ビエンナーレが開催されて以来、世界各地で国際美術展が開催されてきたが、1990 年代に入り開催数は数を増やし、国際美術展が本格化したと考えられる。また、1990 年代以降東アジアにおける新興の国際美術展の開催が目立っている。

8-2. 国際美術展の会場構成による傾向

1950 年代以前の国際美術展は「1 つの会場のみで構成」されていたが、1950 年代に入りドイツの「ドクメンタ」において「複数の会場で構成」された国際美術展が企画されて以降は、各国際美術展が開催状況に応じて会場構成を選択していることがうかがえる。

8-3. 「横浜トリエンナーレ」と「越後妻有アートトリエンナーレ」の特徴の把握

表 5 は「横浜トリエンナーレ」と「越後妻有アートトリエンナーレ」の特徴をまとめたものである。

「横浜トリエンナーレ」の特徴として、横浜のランドマークとして認識されている場所が会場となっていることがうかがえる。また、横浜赤レンガ倉庫 1 号館や三溪園も会場となっており、歴史的建造物や場所のアートへの転用がみられる。「横浜トリエンナーレ」は横浜港新港埠頭周辺で開催されており、横浜の特徴を反映させようとする試みであると思われる。しかし、「横浜トリエンナーレ」は開催にあたりテーマを与え作品を選定しており、「横浜トリエンナーレ 2008」においては「タイムクレヴァス」というテーマのもとに「身体」や「時間」をテーマとした作品が展示されている。よって、横浜の特長を反映した場所が展示場所としてあるものの、展示される作品自体はテーマによるものと考えられ、開催場所の地域性よりもテーマ性が勝っていると考えられる。

「越後妻有アートトリエンナーレ」の特徴として、越後妻有地域全体を会場として作品を展示している



図 5. 地域の風景を見る



図 6. 棚田の風景

表 5. 「横浜トリエンナーレ」と「越後妻有アートトリエンナーレ」

	横浜トリエンナーレ	越後妻有アートトリエンナーレ
場所	神奈川県横浜市	新潟県十日町市、津南町
地理的特徴	都市、海、港、観光地	地方、里山、棚田、農村
会場構成	複数の会場で構成 (メインとなる会場を複数用意し会場を構成)	複数の会場で構成 (越後妻有地域全体を使用し会場を構成)
会場の特徴	ランドマーク (新港ピア、運河パーク、大さん橋国際旅客ターミナル、ランドマークプラザ) 歴史的建造物 (日本郵船海岸通倉庫、横浜赤レンガ倉庫 1 号館、三溪園)	田(棚田) 廃屋(空き家、空き学校) 市街地(商店街) 山(里山) 施設 (越後妻有交流館・キナーレ、農舞台、越後松之山『森の学校』キョロロ)
交通手段	徒歩、バス、地下鉄、車	車

ことがうかがえる。具体的な展示場所としては、棚田、里山、空き家等に展示されている。また、地域振興を目的に開催されている国際美術展であり、作品も越後妻有地域の歴史的背景や自然を取り込んだものが選定されている。

「横浜トリエンナーレ」と「越後妻有アートトリエンナーレ」は、共に地域の特徴を反映させ開催されている。しかし、地域の特徴を反映させた箇所は異なっていた。今後の調査として、国際美術展の独自性を打ち出すための要素として地域を捉え、各国際美術展が地域性をどこに反映させたかを把握することが必要であると思われる。

注

- 1) 横浜トリエンナーレ組織委員会：横浜トリエンナーレ 2001 報告書、2002.4
- 2) 伊東正伸＋岡部あおみ＋加藤義夫＋新見隆：アートマネージメント、武蔵野美術大学出版局、p101、2003.4.1
- 3) 大地の芸術祭・花の道実行委員会東京事務局：大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ 2003、現代企画室、p30、2004.4.25
- 4) 石井元章：ヴェネツィアと日本、株式会社ブリュッケ、p155、1999.10.23
- 5) 国際美術展の地域別開催数、開催地域、会場構成の表に関しては、文献及び公式ホームページによりまとめた概要の表から抜粋した。
- 6) 「欧州ビエンナーレ(マニフェスタ)」における開催地は、第 1 回展：ロッテルダム、第 2 回展：ルクセンブルグ、第 3 回展：リュブリアナ、第 4 回展：フランクフルト、第 5 回展：ドノステア＝サン・セバスティアン、第 6 回展：ニコシア、第 7 回展：フォルテツァ、ボルツァーノ、トレント、ロヴェレート(単一都市での開催ではなくイタリアの 4 都市で開催)で開催されており、表 2 には「欧州各地」と記述。